

テーマと担当者紹介

今回のテーマは、沖縄の美術・工芸・伝統品・楽器・特産物についてです。担当は、2年A組の修学旅行委員の皆川虹花さんと三輪育実さんです。



美術・工芸

沖縄の工芸は、絣や紅型をはじめとする多彩な「染織」や沈金や螺鈿を発展させ堆錦を創った「漆芸」が有名です。この他にも、琉球ガラス、木工、竹細工、琉球紙、民具、楽器なども特徴ある工芸として独自の発展をしています。

しかし、このような沖縄の工芸にも課題は多くあります。後継者の育成や安価な工芸品の県外からの市場進出などです。歴史と風土のなかから育んだ独自の工芸文化を守り育てる創意と工夫が求められています。



伝統文化

～エイサー～

お盆の時期に踊る伝統芸能。

現世に戻ってくる祖先の霊を送迎するため、踊りながら地区の道を練り歩く。今や『全国区の伝統芸能』です！



～那覇大綱挽～

400年以上の歴史と伝統を持つ沖縄最大規模の行事。ギネス認定されている全身200メートルの那覇大綱挽を「1万5000人」余りが引き合います。

楽器

～三線～

沖縄の古くから伝わる弦楽器。琉球大国だった頃、中国から伝来しました。

～パーランクー太鼓～

片面だけに牛の皮を張った太鼓。エイサーと呼ばれる伝統芸能で使用される。↓締太鼓（シメデークー）・大太鼓（ウフデークー）も使われる。

～琉球横笛～

沖縄の方言でファンソウとも呼ばれる。材質は竹でできており、横にして吹いて音を出します。

野菜

～ゴーヤー～

一七世紀以降の書物に「苦瓜」が登場。原産地は、東南アジアからインドにかけての「熱帯アジア」だとされ、日本に伝わりました。

*

ゴーヤーチャンプルーが有名ですね。ゴーヤーは、ビタミンCが豊富で健康にいいそうです。独特の苦みがクセになりますね。沖縄は、長寿県です。きっと食生活も影響しているのでしょう。



果物

～シークアーサー～

沖縄の方言で「シー」は「酸、あるいは酢」、「クアーサー」は「食わせるもの、あるいは加える」を表します。琉球諸島、および台湾に自生するもので7月頃から実をつけ始めます。



今号は、2年A組の修学旅行委員の皆川虹花さんと三輪育実さんが担当してくれました。定期考査の前にもかかわらず、早めに原稿をまとめて提出してくれました。

沖縄の文化は、日本の本州とは異なる独自の文化です。建築様式や植生も異なり、初めて訪れると、まるで異国に降り立ったような印象を受けます。沖縄の文化を知るためには、歴史の勉強も必要だと実感させられます。また、沖縄の人々は、歌や踊りを大切にされているのだなと思います。三線の音色は、心に響き、うったえかけてくるようで、人々の明るさと陽気さの陰には、多くの苦勞や悲しみもあったのだらうと想像させられます。

次号予告

次号は、2年F組が担当で、テーマは、沖縄の童話・方言・歌です。

沖縄の言葉は、優しい響きで大好きです。歌は、好きなアーティストがいてよく聴いています。民謡も素晴らしいですよ。私は、沖縄から帰ってくると、沖縄が恋しくてたまらなくなります。沖縄の美しい風景と共に、出会った人々を思い出し、また沖縄に行くために頑張ろうと思うのです。次号をお楽しみに！